

# 伝法の

# 三十番神さん

平成元年八月五日号

伝法の千代田町にある三十番神社は、神社であるのに仏式でお参りをします。今回は、この三十番神社のことを、伝法二丁目の芹沢寿夫さんと千代田町の吉岡義信さんに教えていただきました。

## お堂の中に厨子

弥生通りと伝法沢川が交差する信号を北に歩くと、左手に木立ちに囲まれた小さな神社があります。

三十番神は、この中に整然と鎮座しています。一体は十センチ余りで塑造、神々しいお顔は、一見すると同じようですが、三十体それぞれ微妙な違いがあります。

これが、三十番神社で、地域では「番神さん」と呼ばれています。お堂は古いながらもよく管理されており、中は格子の手前が外陣、奥が内陣になっています。

内陣には、間口

が百六十センチ奥行きが二百二十センチの厨子があります。この厨子は、つくられてから百年以上たっているというだけあって莊厳です。





▲三十番神社（平成14年1月撮影）

## 神社の前でお題目

三十番神とは、法華經の守護神で、一か月三十日を毎日交代して守る神様です。お堂の前には大きな鈴もぶら下がり、れつきとした神社ですが、お参りをする人々は「南無妙法蓮華經」とお題目を唱えます。

芹沢さんは「明治以前は寺と神社は密接な関係だったので、番神さんは近くの妙覺寺の境内だつたんじやないかな。その名残でお題目を上げるのでは」と語ります。

また、お堂の中には文久元年（一八六一年）と明治時代の俳句の額もあります。

こうした点から、この地域の先人の信仰心や文化活動の高さを推しはかることができま

語ってくれた方

芹沢寿夫さん  
吉岡義信さん